

# 休所中の清川関所に雪囲いを設置しました！

令和三年十二月六日、清川関所に雪囲いを設置しました。  
午前中から始まった作業はお昼過ぎには完成。今、雪囲いが建物を守っています。



令和三年十二月九日  
青空の下で撮影した清川関所

年末年始にかけてまとまった雪が降り、一月六日には清川関所周辺の積雪量は一メートルに迫りました。  
現在、清川関所は冬期休所中ですが、三月の営業再開に向けて着々と準備を進めています。

## 清川歴史公園かわら版

■発行所  
清川歴史公園  
管理運営委員会  
■連絡先  
庄内町  
立川総合支所  
立川地域振興係

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイトなどにご協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。  
管理運営委員会、または役場立川総合支所立川地域振興係までお気軽にお声がけください。  
連絡先 〇二三四一五六二二一七



令和三年十二月十三日  
雪が降り始めた清川関所



令和三年十二月二十七日  
雪に覆われた清川関所

### 亀ノ尾の里資料館 第九十六回企画展 清河八郎展

潜中紀事から見る  
改革への道

余目第四公民館・亀ノ尾の里資料館では、第九十六回企画展「清河八郎展」潜中紀事から見る改革への道」が令和四年二月十三日まで開催中です。



清河八郎記念館は現在冬季休業中ですので、自筆資料を間近で見ることが出来る貴重な機会です。阿部亀治をはじめ庄内の米作りを支えた篤農家（とくのか）たちの足跡と共に見学してみてください。

### 伝統行事 清川塞の神

令和四年一月三日、清川の伝統行事「清川塞の神」が行なわれました。清川塞の神は地域に疫病や悪霊などが入るのを防ぎ、災いから人々を守るお祭りです。今年は新型コロナウイルス感染症状況を踏まえて内容を変更。午前九時にデクサマという人形と剣を持った各道祖神の若者頭（世話役）が御諸皇子神社社務所に集まり、揃って御祈禱を受けました。



その後、御神体が待つ神宿や集会所にデクサマを持ち帰り、地域の人々がお詣りを行いました。

清川塞の神の担い手である子供が少子化で減少している中、清川塞の神保存会（加藤皇会長）の皆さんが、知恵を絞って伝統行事を守っていかうとする姿がとても印象的でした。疫病から人々を守ってきた清川塞の神が、新型コロナウイルスを完全終息に導いてくれることを願ってやみません。



### 清川歴史公園・公式SNS

インスタグラムに加えて、新たにツイッターとフェイスブックも開設いたしました。  
清川歴史公園や清川地域の情報を発信しています。皆様、ぜひフォローしてください。

ツイッター フェイスブック



# 「栽培の成果 味わう」 そば打ち体験 立川小

## 御殿茶屋のスタッフが3年生にそば打ちを指導しました！

令和三年十二月十三日に狩川公民館で行われた、立川小学校三年生のそば打ち体験で御殿茶屋のスタッフが講師を務めました。子供達が収穫したソバを使ったそば粉と強力粉、水をこね鉢の中で混ぜ合わせた後、交代で麺棒で伸ばし、大きなそば切り包丁を使って切っていききました。事前に映像を見て打ち方を勉強してきたのですが、どうしてもそばが太くなってしまいうことも。細くなるように、こま板を置く場所を一生懸命調整しながら切っている姿が印象的でした。そして茹で上がったそばを全員で試食。おかわりをしてくるお子さんが多く、香りを楽しんで、そば湯も味わっている様子を見ると、普段からそばに慣れ親しんでいることがよく分かりました。

試食後には、講師を務めたスタッフへのお礼にと、児童の皆さんから合唱をプレゼントしていただき、その歌声にスタッフ全員胸が熱くなりました。また後日、立川小学校からそば打ち体験の感想をまとめた冊子を送っていただきました。自分たちで種から育て収穫したソバの実。そのソバの実を挽いてできたそば粉を使って、打ったそばを味わう…多くの工程を経てできたそばの美味しさから、地元の食文化を感じてもらえたのではないかと思います。

なお、このそば打ち体験の様子は、十二月十八日の山形新聞で紹介されました。



自分たちで育てたソバでそば打ちを体験する立川小の3年生  
庄内町・狩川公民館

### 栽培の成果 味わう

そば打ち体験  
庄内・立川小

この日は御殿茶屋を運営する地元住民らが講師を務めた。児童が収穫したものを含むそば粉と強力粉、水を合わせてこね、交代しながら麺棒で伸ばしていった。包丁で切る場面では、うどんのような太さになってしまう子も。斎藤一途(いちず)君(9)は「力を入れて真つすぐそばを切るのが難しかったけれど、うまくできた」と話していた。打ったそばはみんなまで味わった。(井上萌々子)

庄内町立川小(村山能弘校長)の3年生25人が13日、同町の狩川公民館で、自分たちで育てたソバを使ってそば打ちを体験した。町内では立谷沢地区にソバ畑が広がっており、清川歴史公園内の御殿茶屋では住民有志がそばを提供している。そば打ち体験は地元の名物を知ってもらう機会にしよう、総合学習の一環として企画。子どもたちは本年度、校内の畑でソバの種まきや収穫も行った。

山形新聞(令和3年12月18日)の記事より

### 企画展示部会より

酒井家庄内入部四〇〇年記念展示連携事業

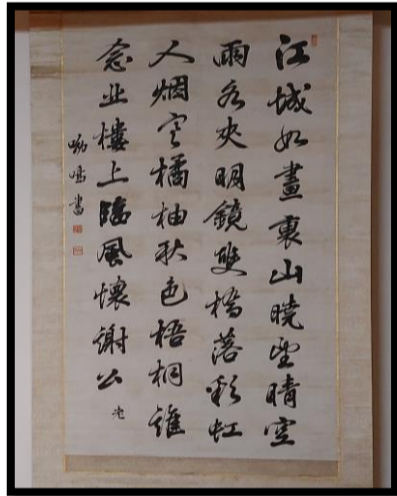
## 庄内藩の参勤交代

三月からの展示資料

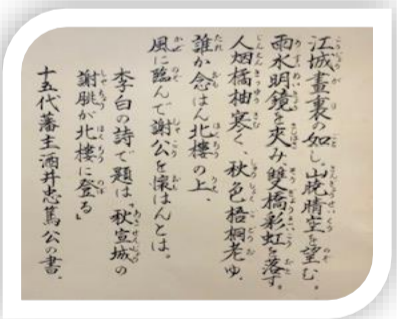
令和四年三月から清川歴史公園で始まる企画展示「酒井家庄内入部四〇〇年記念展示連携事業 庄内藩の参勤交代」において、酒井家十三代藩主・酒井忠篤(ただずみ)公の書(掛け軸)を展示することになりました。

庄内町歴史民俗資料館からお借りしたこの掛け軸には、李白の詩「秋登宣城謝朓北樓(秋宣城の謝朓が北樓に登る)」が書かれています。筆遣いから、忠篤公の人柄を想像しながら鑑賞してみたいかがでしょうか。

この他にも庄内藩の参勤交代に関する資料を展示予定です。



酒井忠篤公の書(庄内町歴史民俗資料館所蔵)



### 【酒井家庄内入部四〇〇年観光ガイドブックに「旧松山藩・旧清川関所コース」が掲載されています】

酒井家庄内入部四〇〇年記念事業実行委員会観光部会発行のパンフレット「今も殿が暮らすまち「城下町鶴岡・港町酒田」において酒田市の松山城大手門や心光寺と共に清川歴史公園・庄内藩清川関所と北楯大堰が紹介されています。

なお、このパンフレットは、清川公民館や役場立川総合支所などに置いてありますのご利用ください。



今も殿が暮らすまち

### 歴史の里のおもてなし ガイドの会より

令和三年十二月十四日、清川公民館で行われた、きよかわ観光ガイドの会の納会が行われました。席上で、会員がアイディアを出し合って作成した夏のユニフォームが披露されました。

御殿林を思い起こさせる深緑色の生地、背中には清川歴史公園がデザインされたロゴが入っています。きよかわ観光ガイドの会メンバー一同、新しいユニフォームを着てみなさまをご案内する日が来ることを心待ちに、日々自己研鑽に励んでいます。



令和四年は酒井家庄内入部四〇〇年。庄内藩の関所があった「清川」をガイドと一緒に「見て・聞いて・歩いて」歴史を感じる街歩きを楽しみませんか？